

## コラム 16 ー 当時の蔵相ウイッテの回想記

「この危険な仕事（朝鮮支配政策）は、無論日本人に全部知れ渡り、日本人は、ロシアは表面では朝鮮から手を引いたと見せ、裏では朝鮮占領の野心があるのだと解釈した。日本人が極度に我々に反抗するようになったのは、極めて自然の成り行きといわねばならぬ。遼東半島占領と、次いで義和団鎮圧の口実で満州に軍隊を送り、その後になって撤兵しないという、2つの事実によって、支那は全然ロシアを信用しなくなった。日本も同じであった。もし我々が日本との協約を正直に遵守して、朝鮮で陰謀などやらなかったら、日本はもっと安心したに違いなく、我々に対して断然たる決心も取らなかつただろう。だが我々は、一方では遼東半島から日本を退去させながら自らこれを占領し、他方ではその代償として日本と（朝鮮に関する）協約を結びながら、陰険な手段でこれを破るようなことをしたのだ。日本がロシアを信用しなくなったのも、また当然過ぎるほど当然といわなければならない。」